

日刊薬業

2025年4月24日（木）

医学会が保険適用継続を要望

自民・漢方議連

2025/4/23 21:40

自民党の「日本の誇れる漢方を推進する議員連盟」（田村憲久会長）は23日、衆院議員会館で総会を開き、日本東洋医学会と日本臨床漢方医会などからヒアリングを行った。東洋医学会の三谷和男会長は漢方薬の保険適用の継続を訴えた。臨床漢方医会からは渡辺賢治理事長らが参加した。議連は非公開。終了後に関係者が報道陣の取材に応じた。



自民党の漢方議連で挨拶する田村会長=23日、衆議院議員会館

両団体は、日本維新の会が提案している漢方などOTC類似薬の保険適用除外を念頭に置き、漢方薬に対する保険適用を続けるよう訴えた。三谷会長は、漢方薬が手術後の腹部症状（イレウス）炎症性腸疾患や透析で起きる筋痙攣など、さまざまな疾患の治療に使われていることを紹介。医師が問診や血圧確認、血液検査などを基に、適正に処方していることを説明した。その上で、漢方薬が保険適用から除外されると、患者の判断による使用拡大で健康被害が増大する恐れがあるほか、外来や入院医療で漢方薬を処方できなくなると問題視した。

日本漢方生薬製剤協会の加藤照和会長はNDBオープンデータを基に、医療用漢方製剤が1年間で17億日分を処方されていることや、国民1人あたりに換算すると14日分になることを説明。「漢方製剤は国民の医療に浸透している。医師のコントロール下で使うべき薬剤だ」とご理解いただきたい」と述べた。

議連の冒頭に田村会長は、自民、公明、維新の3党による社会保障改革の協議会で、OTC類似薬の見直しが論点になっていることを説明。「われわれとは違う考え方を持つ方々とも議論していくのが自民党。誤った道に踏み込まないように、ご心配いただいているようなことにはならないようにしたい」と述べた。

事務局長を務める国光文乃衆院議員は総会終了後、日刊薬業の取材に応じ、出席議員からはOTC類似薬の保険外しに反対する意見や、インフレによる原料生薬の価格高騰への対応、原料生薬の脱中国依存をどう進めるかなどの意見があったことを説明した。

(海老沢 岳)

All documents, images and photographs contained in this site belong to JIHO, Inc.

Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.

Copyright (C) JIHO, Inc.

株式会社じほう